



# 野鳥の 不思議解明 最前線

#94

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2013

今年のカツ丼コレクション。カツ丼と言っても多種多様。ぼくも実は多様な食物をとっていると言えるのかもしれない

## ヒナの要望で採食場所をかえる？

～ヒナの空腹時に樹冠で採食ようになるマダラヒタキ～

先日、秩父から巣箱を回収してきて、繁殖期の調査が終了しました。ぼくは調査や出張に行くと、必ずカツ丼を食べます。この繁殖期も一ノ関でカツ、佐渡でカツ、秩父でカツ、諏訪でカツ、駒ヶ根でカツ……。今年のカツ丼写真コレクションを見たら、ここまで21回食べているようでした。「そんなにカツ丼ばかりじゃ体に悪いよ」とは言われませんが、調査中、ぼくは原則食事行動を変えません。しかし、だれかと一緒だったりすると、悲しいかなその要望に応じて食事をかえなければならぬことがあります。鳥の雄も同様に、他個体の要望に応じて採食行動を変えなければならなくなっていることを示した研究をみつけたの紹介いたします。

その研究を行なったのはエストニアのMändさんたちのチームです。彼らはマダラヒタキがヒナの要求に応じて採食行動を変えているかどうかを実験的に確かめました。ちょっとかわいそうなのですが、網を使ってヒナが給餌された餌を食べられないようにしました。すると、餌を食べれないヒナは空腹のため、ずっと餌乞いを続けます。こうした実験的につくった「エサ不足の状況」と通常の状況とのあいだでの給餌食物を比べることで採食行動に変化があったかどうかを推測したのです。

通常、マダラヒタキの雌は樹冠でイモムシを採食します。雄は雌とは少し違って、空中で蛾やチョウの成虫を捕獲することが多く、イモムシとともにそれらをヒナに給餌します。ところが、ヒナの餌乞

いが増えた場合、雌には給餌行動に変化はないのですが、雄は成虫を捕獲することが減り、イモムシの割合が高まりました。操作しているのはヒナの餌乞の激しさだけなので、採食場所にいる成虫とイモムシの量は変化していないにもかかわらず、空中で成虫をとるのを止め、樹冠でイモムシをとるようになったのです。なぜそういう変化がおきたのでしょうか？

ヒナにとってイモムシの方が成虫より良い食物だと言われています。それにもかかわらず雄が成虫を持ってくるのは雄がなわばり防衛などのためにさえずる必要があるからだと考えられています。つまり、さえずりながらでも空中を飛んでいる蛾やチョウの成虫ならば、見つけて捕獲することができるので、成虫率が高いのです。しかし、ヒナの餌要求量が多くなると、させずりにかける労力を減らして、ヒナにとって良い餌を運ぶようになったのではないかと考えられます。著者らはさらにこれを拡大解釈して、厳しい環境では採食行動の雌雄差が出にくいのではと考えています（形態についてはこれまで言われてきたことだそうです）。これについては「どうかなあ…」と思ってしまうのですが、面白い研究ですね。

### 紹介した論文

Mänd, R., Rasmann, E. & Mägi, M. (2013) When a male changes his ways: sex differences in feeding behavior in the pied flycatcher. *Behavioral Ecology* 24: 853-858. doi: 10.1093/beheco/art025